

【目指す学校像】	○子供一人一人がよさを発揮し、未来を切り拓くための力を身に付ける学校 ○保護者・地域の方から信頼される学校 ○「チーム」としての力を生かし、主体的に課題を解決する学校
【目指す児童像】	○自分たちの学習や生活等によりよくするよう課題をもち、その課題解決のための方法を自分なりに工夫し、最後まで根気強くやり抜く子供 ○体力向上を目指すとともに、心身ともに健康でたくましく、爽やかな挨拶と元気な返事ができる子供 ○一人一人の意見を尊重し、みんなと協力しながら奉仕する心をもって自らすすんで働く子供
【目指す教師像】	○挑戦・・・変化を前向きに受け止め、目標に向かって挑戦する教職員 ○信頼・・・相手意識をもって深い信頼関係を築く教職員 ○貢献・・・連携・協働して、チームに貢献する教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題 【成果】 ・読書活動の推進 ・自己有用感を高め、思いやりの心を育てる学校づくり ・ICT機器を効果的に活用した授業改善の推進 ・地域英語講師を活用した英語教育の実施 ・地域の教育資源や外部人材等を活用した豊かな体験と学びの機会の設定  
・縦割り班活動「なかよし班活動」の実施

(簡条書きで簡潔に) 【課題】 ・言語活動の充実 ・日常的に運動を楽しもうとする児童の育成 ・家庭学習の充実

3つの施策	中期経営目標 (施策の内容)	「取組・努力」の評価基準(学校・教職員の姿勢、取組状況)	評定	最終評定	「成果」の評価基準(児童・生徒の姿容)	評定	最終評定	実態・分析	学校関係者評価	次年度に向けて
小中一貫教育を柱とした特色ある教育の推進	①確かな学力の定着	「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「授業は、よく分かり、楽しいと思う」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が88% (中間評価比「とてもあてはまる」1%増)であった。教員の肯定的な回答は91% (中間評価比「たいへんよくできた」10%増)であった。教員一人一人が課題意識を持ち、授業改善を進めることを通じて、児童の肯定的な回答が高い状況が見られる。教員は、本校の校内研究の6つの手だてを活用したり、課題提示や導入を工夫したり、ペアやグループでの話し合いを数多く取り入れたりして取り組んでいる。	・教員の研修研究の効果が授業に表れている。 ・たいへんよい。	次年度も、単元を通して、児童の主体的学びの姿・対話的学びの姿・深い学びの姿が見られる学習活動を工夫するとともに、活動する時間を確保できるように、授業観察、校内研究、OJTを中心に日々の授業改善に取り組んでいく。
		「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「授業は、よく分かり、楽しいと思う」の肯定的な回答が70%以上である。	3				
		「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「授業は、よく分かり、楽しいと思う」の肯定的な回答が60%以上である。	2				
		「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善ができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「授業は、よく分かり、楽しいと思う」の肯定的な回答が60%未満である。	1				
	②特色のある教育の推進	「児童の自己有用感を高める指導ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「なかよし班活動は、楽しく積極的に取り組むことができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が93% (中間評価比「とてもあてはまる」1%増)であった。教員の肯定的な回答は95%であった。教員が様々な場面で児童のよい行いを認めたり、称賛したりすることを通して、なかよし班活動を楽しむ積極的に取り組んでいる児童が多い。また、ペア学習による落ち葉清掃やゴジロタイム(集中して取り組む清掃活動)の実施、学級での当番活動や係り活動の工夫などを通して、自己肯定感を高めている。	・机に向かうのは大事ですが、室外活動を通して、さらに子供の絆が生まれると思うので賛同いたします。 ・たいへんよい	次年度も、「なかよし班活動」や「なかよし班花植え(花いっぱい運動)」等の縦割り班活動において、児童に「人に関わりたい」という意欲を持たせ、児童の工夫や努力を認める指導など、児童の自己有用感を高めることに力を入れることを通じて、異学年交流の楽しさを味わえるようにする。また、運動会、作品展などの学校行事を通して、自己有用感を高めていく。
		「児童の自己有用感を高める指導ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「なかよし班活動は、楽しく積極的に取り組むことができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3				
		「児童の自己有用感を高める指導ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「なかよし班活動は、楽しく積極的に取り組むことができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2				
		「児童の自己有用感を高める指導ができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「なかよし班活動は、楽しく積極的に取り組むことができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1				
	③新しい課題に対応した教育の推進	「児童が運動を楽しむために、体育の授業、体育的行事、休み時間等の外遊びの奨励を実施できた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「体育の授業、体育的行事、休み時間等の外遊びなどにおいて、運動を楽しむことができた」の回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が89% (中間評価比「とてもあてはまる」1%増)であった。教員の肯定的な回答は86% (中間評価比「たいへんよくできた」5%増)であった。教員は、運動会に向けて体育の授業の充実を図るとともに、ランランタイム(持久走週間)の実施や遊ぼうデーをはじめ休み時間の外遊びを工夫して奨励して、児童が運動を楽しめるように取り組んだ。3学期には、なわとび大会・週間を実施していく。	・教師のアイデアで子供たちが外に出ておもいっきり身体を動かすことにより、心身共に健康になっている。 ・たいへんよい。	次年度も、体育の授業を工夫するとともに、「遊ぼうデー」、休み時間等の外遊びの奨励、運動会、持久走週間、縄跳び週間・大会を通して、日常的に運動を楽しもうとする児童を育成していく。
		「児童が運動を楽しむために、体育の授業、体育的行事、休み時間等の外遊びの奨励を実施できた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「体育の授業、体育的行事、休み時間等の外遊びなどにおいて、運動を楽しむことができた」の回答が70%以上である。	3				
		「児童が運動を楽しむために、体育の授業、体育的行事、休み時間等の外遊びの奨励を実施できた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「体育の授業、体育的行事、休み時間等の外遊びなどにおいて、運動を楽しむことができた」の回答が60%以上である。	2				
		「児童が運動を楽しむために、体育の授業、体育的行事、休み時間等の外遊びの奨励を実施できた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「体育の授業、体育的行事、休み時間等の外遊びなどにおいて、運動を楽しむことができた」の回答が60%未満である。	1				
	④人権教育の推進と道徳教育の充実	「親切な行為や思いやりの大切さを考える指導ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「人に温かい心でかわかり、親切にすることができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が89%であった。教員の肯定的な回答は95% (中間評価比「たいへんよくできた」5%増)であった。教員は、日常的に相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを指導し、親切な行為や思いやりの意義を実感できるようにした。また、主に代表委員会が企画・運営してくれた「ハートフル・ワーク」の取組、道徳の授業、学級活動などの機会を通して、親切・思いやりの大切さについて指導を行った。	・大人になるための基本的なマナーを子供の時に身に付けておけば、どのような時でもその心得を発揮できると思う。 ・たいへんよい。	次年度も、「はむらの道徳科授業指針」に基づく授業づくりを行うとともに、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりする機会をつくることを通じて、親切な行為や思いやりの大切さを考える指導を行う。また、9月には、道徳授業地区公開講座を実施し、「羽村市における幼・保・小・中・望ましい習慣の形成」を活用し、学校・保護者・地域で連携するための機会としていく。
		「親切な行為や思いやりの大切さを考える指導ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「人に温かい心でかわかり、親切にすることができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3				
		「親切な行為や思いやりの大切さを考える指導ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「人に温かい心でかわかり、親切にすることができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2				
「親切な行為や思いやりの大切さを考える指導ができた」の肯定的な回答が60%未満である。		1	「人に温かい心でかわかり、親切にすることができた」の肯定的な回答が60%未満である。		1					
⑤小中一貫教育の推進	「家庭学習の充実に向けた取組ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「家庭学習がだんだんと取り組めるようになっていく」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が87%であった。教員の肯定的な回答は90% (中間評価比「よくできた」9%増)であった。教員は、日頃から学習の進捗と家庭学習を連携させるとともに、年2回の家庭学習ワークに重点的に指導を行い、特に4年生以上では自主学習ノートの取組を進めた。また、個に応じた声掛けを行った。家庭学習の手引き、学級通信、算数少数担当からの通信により家庭との連携を図ったりして工夫した。	・教職員とご家庭が連携を密にすることにより、ご家庭での学習意欲が高められるので、とてもよい。 ・たいへんよいが、家庭学習の充実を図る取組が小中一貫教育の取組として第二中学校区で一体感が感じられるようになること。	次年度も、授業と家庭学習を連携させていくとともに、自主学習ノートや家庭学習記録表を活用して第2回家庭学習ワークを実施することを通して、家庭と連携して、児童の学習習慣を身に付けていく。	
	「家庭学習の充実に向けて取り組むことができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「家庭学習がだんだんと取り組めるようになっていく」の肯定的な回答が70%以上である。	3					
	「家庭学習の充実に向けて取り組むことができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「家庭学習がだんだんと取り組めるようになっていく」の肯定的な回答が60%以上である。	2					
	「家庭学習の充実に向けて取り組むことができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「家庭学習がだんだんと取り組めるようになっていく」の肯定的な回答が60%未満である。	1					
多様なニーズに応じた教育の推進	⑥特別支援教育の推進	「チーム学校で連携して個に応じた支援ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「困りごとや心配なことがある時に、先生や身近な大人に相談できると感じますか」の肯定的な回答が80%以上である。	4	3	児童の肯定的な回答が79%であり、「あまり、あてはまらない」と回答した児童が15%であり、「あてはまらない」と回答した児童が6%であった。教員の肯定的な回答は95%であった。教員は、校内委員会や学年会を通して支援が必要な児童に対して共通理解を図り、支援してきた。また、日頃より児童理解に努めるとともに、「挨拶プラス一言」などを行うことを通じて、児童が相談しやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。中学年から高学年までにおいて児童の肯定的な回答の割合が高い傾向がある。	・教職員が子供に寄り添うことがとても重要であり、いかに子供の心をつむかむことができるかがポイントになると思う。 ・たいへんよい。	次年度も、個に応じた支援ができるように、特別支援教育支援員、特別支援教育助員、スクールカウンセラー、教育相談員、スクールソーシャルワーカー等と連携し、チーム学校として対応する。特に、支援を必要とする子供の長所・強みに着目する視点を重視する。
		「チーム学校で連携して個に応じた支援ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「困りごとや心配なことがある時に、先生や身近な大人に相談できると感じますか」の肯定的な回答が70%以上である。	3				
		「チーム学校で連携して個に応じた支援ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「困りごとや心配なことがある時に、先生や身近な大人に相談できると感じますか」の肯定的な回答が60%以上である。	2				
		「チーム学校で連携して個に応じた支援ができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「困りごとや心配なことがある時に、先生や身近な大人に相談できると感じますか」の肯定的な回答が60%未満である。	1				
	⑦子供たちが楽しく通える学校の実現	「ささいな兆候であっても、積極的にいじめを認知し、学校全体で組織的に解決できた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的な回答が100%である。	4	3	児童の肯定的な回答が97%であり、その内訳として「あまり、あてはまらない」と回答した児童が1%であり、「あてはまらない」と回答した児童が2%であった。教員の肯定的な回答は100% (中間評価比「たいへんよくできた」5%増)であった。教員は、児童観察を行い、いじめにつながる行動を見逃さず指導を行うとともに、アンケートを毎月実施する等して、小さな兆候から積極的に認知して、組織的に対応してきた。一方で児童の肯定的な回答が100%に達成していない。	・教職員から見えない部運でのいじめを少しでもなくせるように対応されていることが分かった。 ・学校は、子供の真心と表面上の落差を見極めて対応することが大切であると思う。また、保護者の心構えとケア、被害者の二つの把握を行った上で、いじめ加害者と被害者の関係修復を行い、いじめの解消を図っていく。	次年度も、「いじめ、いじわる、いやがらせ」を許さない学校づくりのために、アンケート調査を月1回実施し、積極的にいじめを認知して、学校いじめ対策委員会を中心に組織的に対応する。また、「挨拶プラス一言」などを行い、児童が相談しやすい雰囲気づくりを行うとともに、長期休業明けには「いじめでも誰でも相談週間」を実施していく。さらに、いじめを認知した際には、被害者の心構えとケア、被害者の二つの把握を行った上で、いじめ加害者と被害者の関係修復を行い、いじめの解消を図っていく。
		「ささいな兆候であっても、積極的にいじめを認知し、学校全体で組織的に解決できた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的な回答が90%以上である。	3				
		「ささいな兆候であっても、積極的にいじめを認知し、学校全体で組織的に解決できた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的な回答が80%以上である。	2				
健やかな成長を支える教育環境の整備	⑧児童・生徒理解に基づく指導体制の構築	「校内で情報共有を図り、児童理解に基づく指導ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が91% (中間評価比「とてもあてはまる」2%増)であった。教員の肯定的な回答は95%であった。教員は、学年会、生活指導大会、校内委員会、特別支援教育協議会を実施することを中心に組織的に児童理解を図り指導した。一方で児童の肯定的な回答が100%に達成していない。	・子供一人一人を大切に長所や強みなどをめぐる理解があつてからこそ相互のコミュニケーションにつながると思う。 ・たいへんよい。	次年度も、生活指導終礼(週1回)、学年会、校内委員会(月3回)を行うとともに、特別支援教育協議会(年2回)を実施することを通して、校内で児童理解を図り、支援を工夫していく。その際には、支援を必要とする児童の問題点だけでなく長所や強みに着目して支援を工夫していく。
		「校内で情報共有を図り、児童理解に基づく指導ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答が70%以上である。	3				
		「校内で情報共有を図り、児童理解に基づく指導ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答が60%以上である。	2				
		「校内で情報共有を図り、児童理解に基づく指導ができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答が60%未満である。	1				
	⑨OJTを中心とした校内研修体制の確立	「児童が「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」を発揮する言語活動を取り入れた授業づくりができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「授業では、自分の考えや感想をもつことができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が87% (中間評価比「あてはまる」1%減)であった。教員の肯定的な回答は95% (中間評価比「たいへんよくできた」10%増)であった。教員は、児童が「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」を発揮する言語活動を取り入れた授業づくり意識して取り組んだ。	・人間形成において最も重要なことであるので、楽しい授業を通して更に伸ばしていきたい。 ・たいへんよい。	次年度も、児童が「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」を発揮する言語活動を取り入れた授業を工夫して取り入れ、言葉の力を着実に高める。
		「児童が「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」を発揮する言語活動を取り入れた授業づくりができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「授業では、自分の考えや感想をもつことができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3				
		「児童が「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」を発揮する言語活動を取り入れた授業づくりができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「授業では、自分の考えや感想をもつことができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2				
	⑩保護者や地域住民の協力・参画	「地域の教育資源や外部人材等を活用した豊かな体験と学びの機会を設定することができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	「地域に愛着をもっている」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4	児童の肯定的な回答が90%であった。教員の肯定的な回答は81% (中間評価比「たいへんよくできた」30%増)であった。教員は、校外学習等において地域の教育資源を活用したり、英語地域講師、読み聞かせボランティア、なかよし班花植え・落ち葉清掃・家庭科授業支援・夏季補習教室ボランティア、安全指導(交通安全、防犯、非行防止)などの様々な場面で地域の人材を活用した。	・羽村の地域資源や人材を活用し、子供たちのコミュニケーション能力を高める等、地域への愛着も湧く活動を活かして、豊かな体験と学びの機会を設定していく。特に、あこがれ夢広場では、計画的に準備し、外部人材を活用したキャリア教育を効果的に実施していく。	
		「地域の教育資源や外部人材等を活用した豊かな体験と学びの機会を設定することができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「地域に愛着をもっている」の肯定的な回答が70%以上である。	3				
		「地域の教育資源や外部人材等を活用した豊かな体験と学びの機会を設定することができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「地域に愛着をもっている」の肯定的な回答が60%以上である。	2				
学校の特色	学校の特色や独自性のある取組	「基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて効果的に『計算タイム』ができた」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4(3) ※()は、5・6年児童のみ「英語モジュール」の回答	「『計算タイム』に取り組んで、計算の力が高まった」の肯定的な回答が80%以上である。	4	4(4) ※()は、5・6年児童のみ「英語モジュール」の回答	計算タイムは、児童の肯定的な回答が80% (中間評価比「あてはまる」1%増)であった。教員の肯定的な回答は91%であった。また、5・6年英語モジュールは、児童の肯定的な回答が74% (中間評価比「とてもあてはまる」17%増、「あてはまらない」9%減)であった。教員の肯定的な回答は100%であった。教員は、子供の実態に応じて工夫し、計算タイムを実施した。また、週1日、授業の進度と関連付けて、5・6年英語モジュールを実施できた。	・計算タイムや英語モジュールを活用して基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている。	次年度も、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るため、「計算タイム」を実施する(昼休み終了後の15分間、1~4年生は月・木・金の週3回実施、5・6年生は月・木の週2回実施)。また、5・6年生は、「英語モジュール」を実施する(金の週1回)。
		「基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて効果的に『計算タイム』ができた」の肯定的な回答が70%以上である。	3		「『計算タイム』に取り組んで、計算の力が高まった」の肯定的な回答が70%以上である。	3				
		「基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて効果的に『計算タイム』ができた」の肯定的な回答が60%以上である。	2		「『計算タイム』に取り組んで、計算の力が高まった」の肯定的な回答が60%以上である。	2				
		「基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて効果的に『計算タイム』ができた」の肯定的な回答が60%未満である。	1		「『計算タイム』に取り組んで、計算の力が高まった」の肯定的な回答が60%未満である。	1				